



新春のお慶びを申しあげます。

くる年も

御恩の中に生きる我

成り行きまかせ

弥陀まかせ

駒沢イキ王さん

「ビハラー医療団」の駒沢勝医師のお母さんの歌です。
お母さんは、事ある毎に、勝さんに「一つ、お願いがある」と。「何だい？」と言うと「念仏しろ、念仏しろ」と仰る。それで念仏すると、「ああ、それでいい。それでいい。ありがとう、ありがとう」と仰っておられたそうです。
そういうお母さんですが、五〇年もの間、お念仏のことを「わからんよ、わからんよ」と仰っておられたそうです。
求めるものが求められないでおられた苦痛とともに、ハッと気づかされた後は、



発行 浄土真宗本願寺派 稱讚寺

〒112-0075

東京都足立区一ツ家三丁目五番二〇号

TEL 〇三―五二四二―二〇二五

FAX 〇三―五二四二―二〇二六

HP shousanji.com

令和元年十二月十五日(日)

稱讚寺 親鸞聖人 報恩講

その喜びをたくさん歌に遺されていたのです。

お母さんの一周忌の記念に、駒沢先生らお子さん達でノート二〇冊にしたためておられた自称「私の落書き」から適当に選び本にしたそうです。

このお歌を駒沢先生は、次のように味わっておられます。

何もかも任せているように思われるかもしれませんが、違うのですよ。この「成り行きまかせ弥陀まかせ」というのは、「任せることができず、我をはっている私、任せることができない私を、そのまま向こうが受けとめてくれている」という意味で、「任せられない私がそのまま阿弥陀様に召し取られている」という意味です。

「わからない、わからない」と吐露され続けられた五十年、その間、欠かさなかったことは、ご聴聞とお念仏であられました。それも、ただ聴き流しておられたのではないのでしょうか。

親鸞聖人は、「誠なるかな、撰取不捨の真言、超世希有の正法、聞思して遅慮することなかれ。」と仰っておられます。

何遍も何遍もお聞きになり、日常をふと振り返り、お念仏に問い、あーそうでありました、そうでありましたと繰り返し返された日々ではなかったのでしょうか。

そのような営みがありがく感じます。

稱讚寺

宗祖 親鸞聖人

報恩講 厳修



昨年十二月十五日（日）、当寺親鸞聖人報恩講を厳修させていただきました。午前十一時ごろでした。報恩講の準備をしていたら、人影が見えました。ご参拝に来られる

には、早すぎるなあと思ってお迎えしたら、何と、懐かしい方でした。

その方は、一本百合子さんです。

一本さんは、住職が、築地本願寺・東京教区教務所に奉職していたころ、お世話になり、当寺が足立布教所の時、故竹島さんや故田中さん（どちらも住職が築地本願寺でお世話になった方々）とご一緒にお出でくださり、当寺のご法座を盛り上げてくださいました。

この度、お一人で、横浜から電車、バスを乗り継ぎ、ご来院頂いたことです。

一本さんは、お念仏に出遇わせていただいたことを、大変、慶ばれておられました。

若い頃は、父親に勧められて、築地本願寺に参って、ご法話を聞いても全くわからなかったそうです。

しかし、竹島さんと田中さん等のお同行にも出会え、だんだんと心にスーッと入ってくるようになられたとのことでした。

そして、何よりも親鸞聖人が、お念仏の教えをお伝えくださったことを感謝しておられました。

これまでの多くの出遇いを通して、こんな私がおはたらきのおはたらきに、いつも包ま



れていることを味わえる身に成ったとお目々を潤ました。

駅まで車でお送りする中で、こうしてお会い出来るのは最後かと思うと、寂しく思えたのですが、私こそ、一本さんに出遇わせていただいたことで、いつも、

も、氣遣ってくださっておられたことと、とてもありがたい気持ちになりました。

報恩講が始まる前に、準備のことで、頭が一杯になっていた私でしたが、あらためて、今日は、親鸞聖人の報恩講さんなんだと領かされ、親鸞聖人のご遺徳を味わわせていただくことができました。

正午過ぎ、だんだんと門信徒さん方がお集まりになりました。

法要前に、築地本願寺「紫水さん」に頼みましたお斎弁当を食しました。

安達光成さん・早崎光弘さん

川田原末廣さん・正明さん親子

野口明美さん・巽 光雄さん

中木原乃既子さん・福井恒彰さん

細川研一さん

が、この度、ご参拝くださいました。十三時三十分ごろ、報恩講のおつとめをいたしました。





住職が、七條を着装する間に、皆さんにご本尊前並びに親鸞聖人前で、お焼香をしていただきました。

「三奉請」を拝読し、順番を間違つて、「頌讚」「画讚」を拝読してから、「表白」を読み上げました。

その後、皆さんで「宗祖讚仰作法」を拝読しました。



「御俗姓」を拝読して、住職挨拶で、先程の一本百合子さんの話をさせて頂きました。おつとめが終わわり、記念写真を撮り、休憩に入りました。

この度のご講師は、昨年引き続き、東組一樹寺の有賀良雄ご住職にご法話頂きました。

われ仏道を成るに至りて、
名声十方に超えん。
究竟して聞ゆるところなくは、
誓ひて正覚を成らし。

『重誓偈』

報恩講は「恩に報いる集い」と言えますが、「報」には報道報告など知らせるという意味があり、恩（すくい）を知らない人へは恩を知らせる集いともなります。

本願寺第八代宗主の蓮如上人は御文章に「聖人の御まへにまゐらんひとのなかにおいて、信心を獲得せしめたるひともあるべし、また不信心のともがらもあるべし。もつてのほかの大事生を願ふべきなり」（『註釈版聖典』一一九七頁）とあります。

蓮如聖人は、報恩講法要に参る人々の中に不



信心の人もあるようです、この度の参詣をご縁としてお念仏申す人生を歩むものになってくださいと願われました。

親鸞聖人は、今ここで私が南無阿彌陀仏とお念仏するそのままだ、我が口を通して我が声ながらそのままだ、阿彌陀如来の「必ずすくうま



かせよ 安心せよ」というお呼び声とお聞きになりました。

それは、阿彌陀如来が「全ての人を救うため、南無阿彌陀仏（名声）の」とこぼの仏さまとして、どんなところにも（十方）聞こえる仏さまに成

る」との誓いの通り成就して、南無阿彌陀仏とお念仏申すままだ「私の人生は浄土を願ひ仏さまのお慈悲と共に歩む人生となりました」と喜ばれましたのが、親鸞聖人です。

そうして、親鸞聖人のお喜び（み教え）を聴かれた方々が同じくお念仏申す人生を喜ばれて親鸞聖人から七五〇年過ぎた今ここに私もまたお念仏申す人生を頂きました。

親鸞聖人の九〇年のご生涯を偲ぶことは、ここに集う方々と共に今私たちが浄土真宗（真実の救い）のみ教えにあえたことを感謝するご法縁です。

先日、ご挨拶に何う所があり土産を用意したいと思ひ、日本橋の有名な果物屋さんへ行きました。柿が「一山（五個）」に飾られて二千七百円の値札が見えました。その何日か前に近所のスーパーでは柿が火取る八九円の特売がありました。その柿に比べれば大きき色艶は確かに違って素晴らし柿でした。これなら良いかとも思ひもう一度値札を見ると一山（五個）ではなく、一つが二千七百円！でした。残念ながら予算オーバーです。





また、普段車での移動が多く、その日も知り合いのお寺に本願寺からのポスターを届けに出かけました。何度も言っているお寺でしたが、運転中にかけていたラジオの話に気を取られていたのか右折する所を通り過ぎてしまい、次の信号の所でUターンが出来ると思い信号が変わるのを待っていました。信号が変わってUターンすると直ぐにサイレンと私の車のナンバーを呼び、停止を促すマイクの声が聞こえました。そうです、Uターン禁止の場所でUターンしてしまつたのです。おそらくUターン禁止なのに違反する車が多いので白バイがその近くで待機警戒していたのでしょう。私はUターン禁止の標識を見落としていたのです。白バイの警官から説明され標識があることも言われれば確かにあります。道を間違え早く戻ろうとする気持ちが見落としてつながつたようです。

柿といい交通違反といい、自分の思い込み、自分の価値観などで見ているものが正しく見れていなかったことに、気づかされます。自分では、見えている分かつているつもりで、平気で過ごしているのです。その危うさに、愚かしさ恥ずかしさを知らされま

十月の本願寺新報に龍谷大学講師の井上見淳先生が、まもなく各地各寺で報恩講が始まりま



すという記事の中に、広島県芸北にあるお連れ合いのご実家に行かれた時の事を書かれています。芸北は、山深い静かな町で、お寺の前を通る時、誰もが頭を下げて通つて行く。そして、阿弥陀さまを「親さま」と呼び、お念仏される浄土真宗の篤信地だそうです。

そのお連れ合いのご実家のおばあさんが近所の飼い犬に話しかけていたそうです。「あなたは次に人間に生まれんさいよ。そして阿弥陀さまに遇わせてもらいんさいね。よしよし。」

この記事を読ませて頂いて、自分が人間に生まれ、お念仏のみ教えに遇わせて頂いていることの有り難さをあらためて思わせて頂きました。

報恩講は、ご本山本願寺で勤まる御正忌報恩講と全国の各お寺で勤まる報恩講とご門徒皆様の家庭にお仏壇で勤まる報恩講がありますが、以前本願寺月刊誌の『大乘』に本田静芳師が家庭の報恩講に伺った時、その娘さんが小さ

かった時の想い出として、TVばかり視ている私に「いくら視ていてもTVは、あなたを救ってくれませんよ」と阿弥陀さまに手を合わせるように言った母の言葉が忘れられないということが紹介されています。

生まれがたい人間に生まれ、阿弥陀如来の願いを聞かせて頂くことの尊

さを感じます。

今年の七月に築地本願寺のお説教で広島竹田嘉円先生がお説教でお取り次ぎくださったことを、お話ししたいと思います。

山口県のお念仏を喜ばれるご家庭で育った童謡詩人の金子みすゞさんのことをお話くださいました。竹田先生は、以前、金子みすゞ記念館の館長である矢崎節夫氏の講演会で、金子みすゞさんの「犬」という詩を初めて知ったそうです。

「犬」

うちのだりあの咲いた日に
酒屋のクロは死にました。

おもてであそぶわたしらを、
いつでも、おこるをばさんが、

おろおろ泣いて居りました。
その日、學校（がくこ）でそのことを

おもしろさうに、話してて、
ふつとさみしくなりました。

『金子みすゞ童謡全集』（JUR A 出版局）より

そして矢崎節夫氏は、人が悪口を言うとき一番最初にその言葉を聞くのは誰か？それは私の耳だ。そして、それは相手を傷つけるだけではなく、一番最初にその言葉を聞く自分自身が傷ついているんだと。

竹田嘉円先生は、詩人という人は本当にすごいなと感じたそうです。「ふとさみしくなりました」悪口を言って傷つくのは、空いてだけじゃなかった。私もまた自分では気がつかなくても、自分の心のどこかを傷つけている。



私たちは悪口はこうやって言うんだよと教わったことはない。でも言える。嘘はこうやってつくんだよと教わったことはない。でも言える。私の中にもあるんですよ。あつたんですよ。なんて酷い言葉を平気で言えるのか？私はこんな酷い言葉を言う人間だったのか？そんな悲しい人間だったのか？だから阿弥陀さまがおってください。

竹田先生には小学生の息子さんがいるそうです。学校から帰ってくると玄関にドスンとランドセルを置いてすぐ遊びに行く。次の日の朝、ご飯を食べて玄関に置いたままになったランドセルをsのまんま背負って学校に行く。その姿を見ると親は言わずにおれない。「おまえ、大丈夫か」と。放っておけない。

阿弥陀さまが呼び続けていてくださる。そういうことなんですよ。そのまま信じやいけな。また次の世もそんな悲しい淋しい世界にしか生まれんぞ。そんな悲しい人生、そんな空っぽな人生、また空っぽのまま死んでいいのか？よそ向いて生きるな、地獄向いて生きるな、ま

た次の世も地獄の人生を生きるのか？浄土に生まれる人になつてくれと願い続けておってください。

親鸞聖人は、「本願力にあひぬればむなしくすぐるひとぞなき 功德の宝海みちみちて 煩惱の濁水へだてなし」



（『註釈版聖典』五八〇頁）海のように広くて深いお救いが私のところにみちみちておってください。どんなに煩惱深くても分け隔てすることなく届いてくださいました。そうゆう救いに遇ったからこそ、そういう真に出遇ったからこそ「人生が

むなしくなりました！」とおっしゃった。それが親鸞聖人のお喜びであり、お救いですよ。愚かさを知らされてお慈悲に支えられて生きていく。お念仏とはそういう意味。

私は時間の都合が付けば、築地本願寺の常例法話会を聞かせて頂いています。竹田先生のお話は今年お聴かせ頂いた幾人もの先生方のご法話の中でも私の心に印象深く残るお話の一つとなりました。

世間では、今年の流行語大賞とか今年を表わす一字の漢字などが話題になっています。去年から始まった仏教伝道教会が選ぶ「お寺の掲示板大賞」というのがあります。二〇一八年の大賞は、「おまえも死ぬぞ」でした。他にもいくつかの賞があり、「人の悪口はうそでも面白い自分の悪口はほんとうでも腹がたつ」「終活することと あなたの成仏は無関係です」。二〇一九年今年は「衆生は不安な 阿弥陀動きま

す」でした。これは、吉本興業の芸人さんが反社会勢力でのヤイ営業が取り沙汰されたとき松本人志さんのツイートの「後輩芸人たちよ 不安な 松本動きまます」をもじった言葉で、沢山の反響が

あつたそうです。不安いっぱい私の所に届いてくださったって「安心せよ任せよ救う」とはたらいてくださる阿弥陀さまのお呼び声が、南無阿弥陀仏と私の口に称えられ私の耳に聞こえています。

一人も取り残さないという願いは誓いであり、今はたらきとなつて南無阿弥陀仏のお念仏と私のところに、あらゆるところ（十方）に聞こえています。

親鸞さまが御生涯をかけてお示しくくださった浄土真宗のみ教えを大切に一日一日を過ごしたいと思えます。

（有賀良雄師 文）

ご法話の後、四時半過ぎまで茶話会を行い解散となりました。本日は、お参り賜りありがとうございました。

また、ご参拝できなかった、今村則子さん、高久三郎さん、山田昌三さん、高橋誠哉さん・八重子さんご夫妻、田中悦子さん、佐藤千鶴子さん、佐原もとゑさん、佐藤富久子さん、澤井ミサヲさん、村田武子さん、ご懇志賜り、誠にありがとうございました。





昨年12月11日（水）お速夜～12日（木）ご満座にかけて、栃木県益子の妙傳寺様の報恩講さんに5年連続で出講させていただきました。ご満座には、お寺様が16名ほどご出勤で、ご門徒さんの雅楽入りでした。左余間には、親鸞聖人の『御絵伝』が4幅掲げられてありました。



『寺報』二〇四号にて、「たまたま」についてお話をいたしました。
 私は日頃、「出会う」とか「合う」とか「都合（運？）が悪い」時に使いたがると申しました。車を運転していたら、「たまたま」事故に遭ったと、弁解する私でしょう。
 しかし、防災の専門家からの「たまたま、荒川の岩淵水門の最高水位と東京湾からの最高水位に時間の差があったから、今回、荒川が氾濫せずに済んだのです」との解説に衝撃を受けて考えさせられたことは、「事故に遭わなかったことが「たまたま」なのだと思うことだと想いました。
 親鸞聖人が仰る右の御文の「遇（たまたま）行信を獲ば、遠く宿縁を慶べ」の「たまたま」

あゝ、弘誓の強縁、多生にも値ひがた
 く、真実の浄信、億劫にも獲がたし。
 遇、行信を獲ば、遠く宿縁を慶べ。
 もしまたこの度、疑網に覆蔽せられ、かえつてまた、曠劫を経歴せん。誠なるかな攝取不捨の真言、超世稀有の正法、聞思して遅慮するとなかれ。等。
 『教行信証・総序』

は、日頃、私が使う「たまたま」とは全然意味が違ふのです。
 「遇」は「あう・もうあう」とも読みます。また同じく「あう・もうあう」と読む「値」（「多生にも値ひがたく」）があります。
 「値」は、私の方から「あう」という方向ですが、「遇」は、阿弥陀さまの方から「あう」という方向です。
 「遇」は、私の方からは、意識は、全く関わりません。私の方からは、それこそ、「たまたま」としか思えないのですが、阿弥陀さまの方は、必然のことなのです。それを「自然」と言われていると思います。
 気づけば、既に、「南無阿弥陀仏」とお念仏申す身になっている私です。
 そのことを「遠く宿縁」と仰ったのではないのでしょうか。
 それは、初めから私に阿弥陀さまのご本願を信じる素質が宿っていたということではなく、阿弥陀さまが永劫の昔から、常に、私にはたらいておられたことが、既にお念仏申している自分が居るといふ事実のことです。
 そのことを「慶ぶ」というところには、悲しいことに正直、なかなか、そうはいかない私であります。
 「弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば」と、私の業・いのちをそのまま背負い、引き受けて思案され、ご本願を建てられ、そのまま私の業・いのちを背負い、引き受けて、永劫の修行をなされ、ご本願を成就なさったことに、少しでも感じ入るように、お念仏を相続してください。

築地本願寺・東京教区

一一〇一九年度内 行事予定

〈如月忌（九條武子様を偲んで）〉

日時 二月七日（金）一三時〜一六時半
 会場 和田堀廟所 本堂
 講師 武子様ご往生の新聞記事を縁として
 講師 浅田 恵貞師
 （本願寺派勧学・大阪府因念寺）

日程
 一三〇〇 法要
 一三〇五 布教
 一五〇〇 仏教讃歌 築地本願寺合唱団楽友会
 一五三〇 九條武子様墓前参拝（焼香）
 一六〇〇 ぜんざい接待（蓮華の間）
 *和田堀廟所
 住所 杉並区永福一―八一
 電話 〇三―三三三三―〇三三二

〈東京教区仏教婦人会連盟〉

一日研修会

日時 三月三日（火）
 会場 築地本願寺 本堂
 研修会 幸重 忠孝師
 （子どもソーシャルワークセンター代表）
 講話 子どもへの貧困
 講話 細川 真彦師（多摩組覺證寺住職）

日程

一〇〇〇 受付
 一一〇〇 開会式
 一二〇〇 研修会
 一三〇〇 昼食・休憩（ターナ募金）
 一四〇〇 研修会
 一四〇五 休憩
 一四一五 法話
 一五〇五 閉会式
 参加費 三千円
 持ち物 念珠・式章・聖典・筆記用具・常備薬
 ※申込締切 二月二二日（金）

〈東京教区仏教壮年会連盟〉

結成四〇周年記念大会

日時 二月二日（日）一三：三〇〜一六：三〇
 会場 築地本願寺 第二伝道会館 蓮華殿
 テーマ これでもいいのかー仏壮のおもいー
 講師 南荘 摂師
 （静岡西組教覺寺副住職）
 南條 了瑛師
 （中組法重寺衆徒）

日程
 一二：三〇 受付
 一三：三〇 開会式
 一四：〇〇 講話
 講話 南荘摂師
 講話 これでもいいのか
 講話 これでもいいのか
 一四：五〇 休憩

一五：〇〇 法話

講師 南條了瑛師
 講話 南條了瑛師
 講話 自信教人信にたずねる
 一五：四〇 パネルディスカッション
 一六：一五 閉会式
 一六：三〇 解散
 参加費 千円
 ※申込締切 一月二四日（金）

〈つぎじ一泊子ども会〉

日時 三月二六日（木）二二：〇〇（受付）
 二七日（金）一四：〇〇

会場 築地本願寺
 受付 第一伝道会館一階 振風道場
 対象 小学一年〜中学三年生
 定員 六〇名
 参加費 七千円
 内容 ◎仏さまのお話 ◎おつとめの練習
 ◎ゲーム ◎ツキンピック など
 持ち物 念珠・筆記用具・初日弁当・パジャマ
 お米一合・洗面用具（バスタオル）・
 着替え（動きやすい服装）・雨具・他
 *マンガ・ゲームの持ち込みはお断りします
 ※申込締切 二月末日

※ご参拝・ご参加を希望の方は、各申込
 締め切り日までに稱讚寺までご連絡くだ
 さい。
 Tel 〇三―五二四二―二〇二五

稱讚寺 行事予定

二〇二〇年 一月の行事予定



一日(水) 元旦会

五日(日) 寫聖日曜礼拝 午前九時

六日(月) のんのん法話会 午後二時

一二日(日) 日曜礼拝 午前九時

一四日(火) ～一五日(水) 本山・御正忌報恩講出勤

一六日(木) のんのん法話会 午後二時

一九日(日) 日曜礼拝 午前九時

二六日(日) 日曜礼拝 午前九時
のんのん法話会 午後二時

二〇二〇年 二月の行事予定

二日(日) 日曜礼拝 午前九時

六日(木) のんのん法話会 午後二時

九日(日) 日曜礼拝 午前九時

一六日(日) 日用礼拝 午前九時
のんのん法話会 午後二時

二三日(日) 日曜礼拝 午前九時

二六日(水) のんのん法話会 午後二時

二〇二〇年 三月の行事予定

一日(日) 日曜礼拝 午前九時

六日(金) のんのん法話会 午後二時

八日(日) 日曜礼拝 午前九時

一五日(日) 日用礼拝 午前九時

一六日(月) のんのん法話会 午後二時

二二日(日) 日曜礼拝 午前九時
春季彼岸会法要 午後二時

二六日(木) のんのん法話会 午後二時

二九日(日) 日曜礼拝 午前九時

二〇二〇年 一月 法務・布教・出向予定

三日(金) 坂根家月忌参り 九時半

一四日(火) ～一五日(水) 東組御正忌報恩講出仕

一七日(金) 嶋田家一周忌 十一時

一九日(日) 西真一氏奥村家 十一時

二六日(日) 八重嶽家四九日法要 十三時

二〇二〇年度 主な法要・行事

五月二一日(木) 築地本願寺降誕会参拝

六月二一日(日) 永代経法要

八月二六日(日) 孟蘭盆会法要

九月二〇日(日) 秋季彼岸会法要

一二月一五日(日) 築地本願寺報恩講参拝

一二月二三日(日) 親鸞聖人報恩講

三月二一日(日) 春季彼岸会法要

あみだ
阿弥陀

ひかりといのち

きわみなし

二〇二〇年心のともしび「一月カレンダー」より